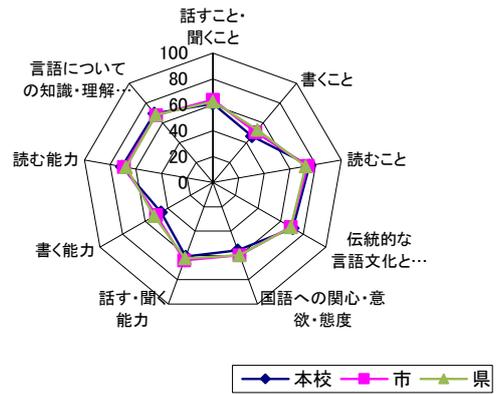


宇都宮市立桜小学校 第4学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	60.9	64.0	62.5
	書くこと	46.7	50.9	53.1
	読むこと	75.2	73.9	72.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	70.7	68.9	69.1
観点	国語への関心・意欲・態度	55.8	59.9	59.7
	話す・聞く能力	60.9	64.0	62.5
	書く能力	46.0	50.4	52.0
	読む能力	70.9	69.3	67.6
	言語についての知識・理解・技能	69.7	67.9	68.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○インタビューの内容を聞いて、話の概要を捉える問題は正答率が高い。 ●インタビューする内容を、自分で記述する問題では、正答した児童は25パーセントであり、正答率が低い。	・話の内容を聞き取る力は、身に付いている児童が多い。今後は、相手に聞きたいことについて考えたり、表現したりする学習をし、力を身に付けさせる必要がある。
書くこと	●書こうとするものの中心を明確にして、理由を挙げて自分の考えを説明することができた児童が全体の50パーセントであり、市の平均を10パーセント程度下回っている。	・問題文に示された条件を理解し、その中で自分の意見やその理由を説明する問題に慣れていないので、自由に書くだけでなく条件付きで文章を書く学習をする必要がある。
読むこと	○市の平均とほぼ同じである。 ○特に説明文の読解については市の平均を6パーセントほど上回っている。 ●文章の内容は理解しているが、段落の役割について問う問題に関しては、正答率が50パーセントを下回った。	・今後も読書指導を継続して指導していくことで、読解力向上を図る。 ・授業の中で、段落同士のかかわりについて、児童に意識させるように指導する。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○漢字の読み書きに関しては、市の平均より高い。 ●ローマ字に関しては、促音のローマ字表記について誤答が多かった。 ●国語辞典に記載されている形に言葉を直すことができた児童が35パーセントであった。	・漢字の基礎基本については取得できている児童が多いので、引き続き指導を継続していく。 ・ローマ字や国語辞典の使い方も、基本的な事項は理解している児童が多いので、応用(促音の書き方や言葉の活用など)について習熟を図るようにする。